



復興まちづくり協議会・地権者連絡会 ニュースレター

復興まちづくり協議会・地権者連絡会を開催しました

開催日	平成 29 年 3 月 26 日（日）
時 間	14：30～16：30
場 所	鵜住居地区生活応援センター
参加人数	78 人
議 題	1. まちなか再生計画について ① 商業施設（共同店舗）について ② 公園・市有地の土地利用について ③ 震災メモリアルパークについて ④ 観光交流拠点施設について ⑤ 市民体育館について ⑥ 鵜住居小学校・釜石東中学校について



当日は、これらの議題について担当より説明しました。

出席された皆さまからは、商業施設や観光交流拠点施設、学校などに関するご質問を頂きました。4 月から新しい鵜住居小学校・釜石東中学校が開校いたします。地域の皆さまがご利用できる地域交流施設が学校施設内に整備されておりますので、ご自由にご利用していただき、地域の皆さまで子供たちを見守っていきたいと思います。

今後も引き続き、工事や設計などを進めるとともに、今回頂いたご意見を反映できるよう取り組んでまいります。

議題の概要

まちなか再生計画について

これまで、復興まちづくりを進めるにあたり、各種の事業ごとに計画を立案し、整備を進めてまいりました。

一方で、より高い視点に立ち、まち全体を俯瞰しながら整備方針を決定し、将来を見据えた復興まちづくりを行う必要が生じています。

よって今後、各種土地利用計画や、公共施設・民間商業施設等の整備・配置計画を総合する上位の計画として、鵜住居地区の「まちなか再生計画」を策定し、個別の計画や整備は引き続き進めながらも、最適な施設整備や配置を目指し、よりよい鵜住居の復興まちづくりに努めてまいります。

〔まちなか再生計画の構成〕

- ◇再生の基本方針・区域設定
- ◇土地利用、公共施設の配置計画
- ◇商圏の現状分析、今後の動向
- ◇自動車・歩行者導線計画
- ◇テナント配置計画
- ◇基本計画図、概算見積
- ◇まちの賑わい再生・強化の方策
- ◇事業主体及び管理運営スキーム検討 など

〔主なスケジュール（予定）〕

	平成29年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
計画検討										
認定申請										

商業施設（共同店舗）について

- ◇鵜住居地区の市街地再生にあたり、市民生活を支える商業機能の回復が不可欠
- ◇被災事業者の再建先を確保し、持続性の高い事業環境を提供するため、国の補助金（津波立地補助金）を活用した共同店舗を整備予定

〔商業施設の想定〕

- ◇商業施設 敷地 約3,500㎡
建物 約1,200㎡
- ◇店舗構成 スーパー＋商店5店舗程度
（飲食、小売・サービス）
※入居者は公募により決定

〔津波立地補助金の概要〕

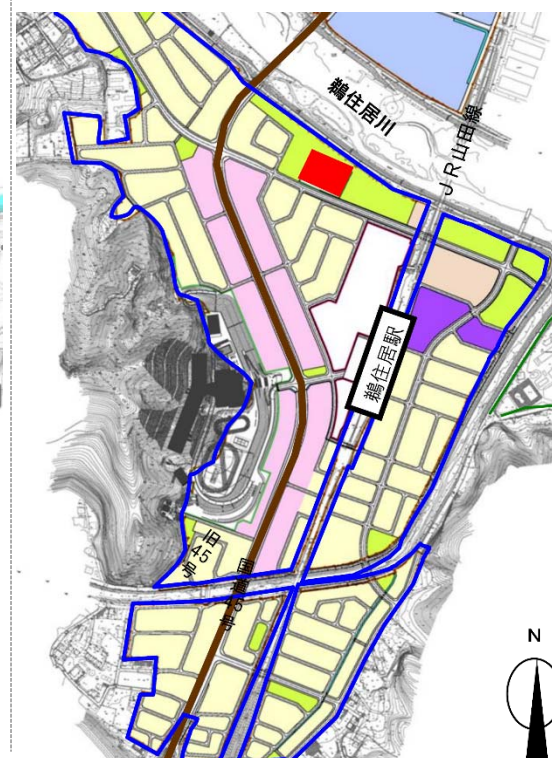
- ◇補助金名 津波・原子力災害被災地域雇用創出企業立地補助金
（商業施設等復興整備補助事業：民間商業施設整備型）
- ◇補助率
①施設整備
・被災事業者入居分 3/4補助
・非被災事業者入居分 2/3補助（大企業1/2）
②設備の復旧費
・被災事業者のみ 3/4補助
※上限5億円
- ◇実施時期
・計画認定後、事業主体（まちづくり会社想定）が津波立地補助金を申請
・平成30年度末までの施設整備を見込む



公園・市有地の土地利用について

市有地部分の土地利用の進め方

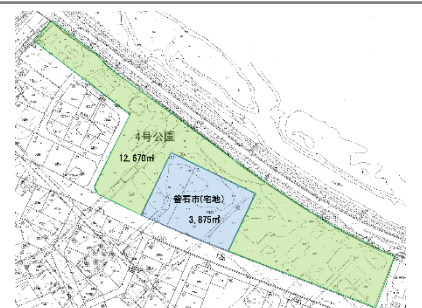
- ・市有地である本エリアは、地域活性化に資する土地利用を行うため、民間から企画提案を募り、有効に活用して行くこととします。
- ・提案の受付は、平成 29 年 3 月下旬～4 月上旬を目途に実施します。
- ・その際には、市ホームページや広報で周知します。
- ・平成 29 年 4 月下旬を目途に、鵜住居地区復興まちづくり協議会・地権者連絡会を開催し、土地利用を決定します。



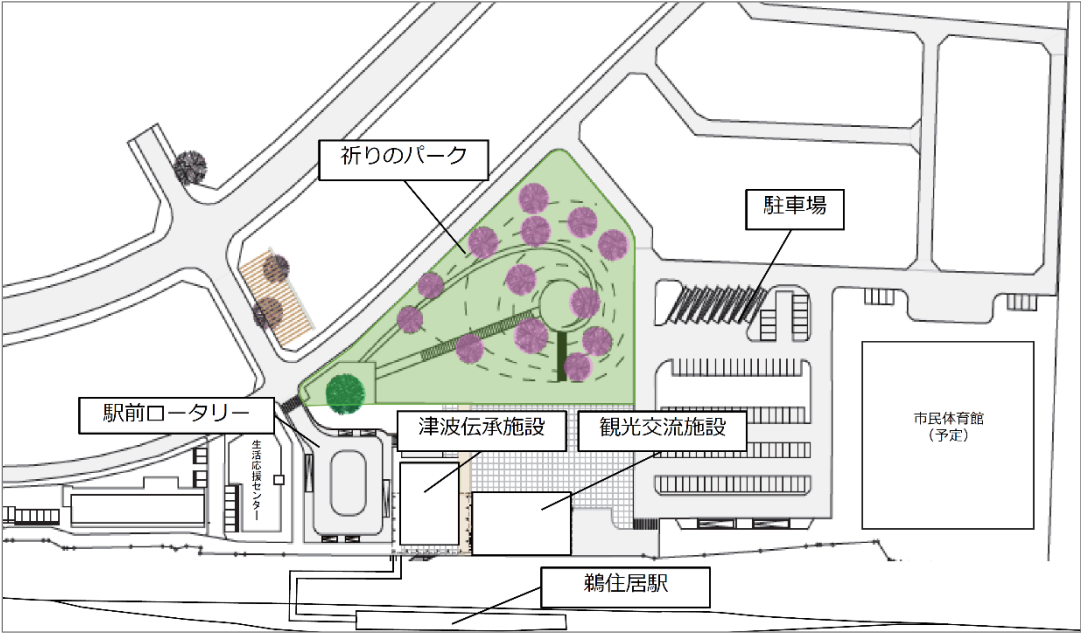
市の仮換地の土地（集約換地）
30 街区①② 仮換地面積：3,875 ㎡
テニスコートの整備について要望があり、市有地部分（左図・下図参照）への整備を検討してきた経過がある。

鵜住居地域の振興に資する土地利用の必要性が生じた。

今般、公園緑地の一部へのテニスコートの整備及び、地域活性化に寄与する市有地の利用を行いたい



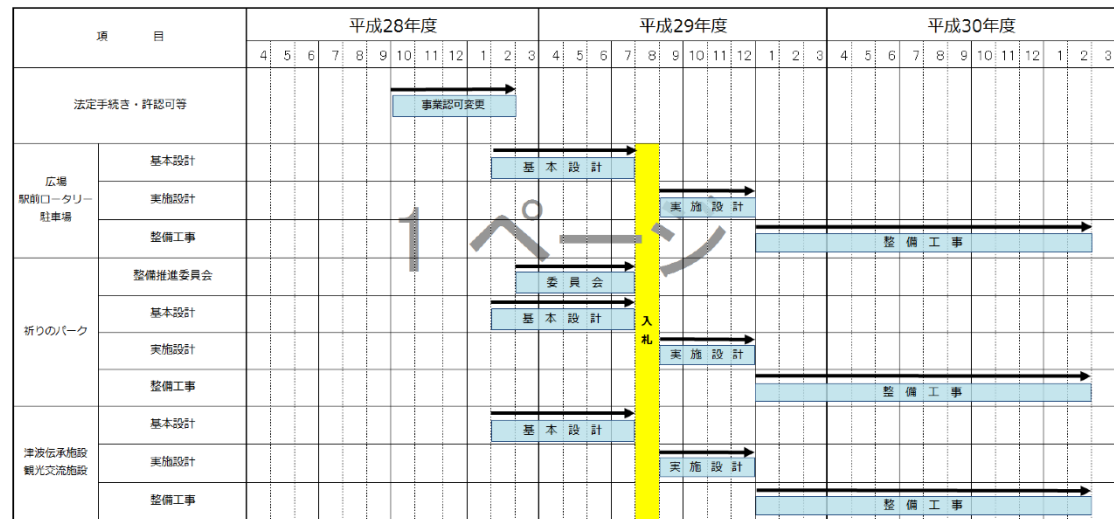
鵜住居地区駅前整備イメージ図



観光交流拠点施設について

整備計画（案）
鵜住居駅前に整備される津波復興拠点整備事業（鵜住居地区）と合わせ産直・物販、休憩、飲食、24H 開放のトイレ機能を有する「観光交流拠点施設」を整備します。

今後のスケジュール



このような意見をいただきました

- 鵜住居地区に計画しているスーパーマーケットの場所や規模、時期を詳しく教えていただきたい。鵜住居地区で住宅再建するにあたり、スーパーマーケットなどの商業施設がどうなるのかが、重要となるため早く決めてほしい。

商業施設を計画している場所は、鵜住居小学校・釜石東中学校の大階段を下って左側のところになります。規模としては、敷地面積約 3,500 ㎡、建物面積約 1,200 ㎡です。

時期については、計画策定が今年 5 月から 12 月までとなりますので、計画が完成するまでの間には、皆さまに説明したいと思います。

- 観光交流施設の規模は当初、1,200 ㎡であると記憶している。しかし、今の計画は、当初の半分程度しかない。直売所・物産館の約 146 ㎡に何店舗入る予定なのか？

当初計画では、1,200 ㎡程度ありましたが、復興庁との協議により規模が縮小しました。ただ、復興アドバイザー等と協議を図り、将来的には規模の拡大もできるよう、観光交流施設の前面にスペースを空けております。

店舗部分については約 150 ㎡あり、仙人峠の道の駅と同じ規模を最低限確保しております。基本的には、洋野町にある「ひろの水産会館 ウニーク」のような規模の地魚を置くスペースを中心に考えており、それ以外の店舗としてはだいたい 1～2 店舗程度を計画しております。

- 引渡しされた宅地に、すぐ家を建てることのできるのか？

皆さまにお示しした宅地引渡しスケジュールにあわせて、しっかりと宅地整備基準に則って宅地を仕上げておりますので、引渡しした段階ですぐに建築工事に着手できます。市は引渡しを行う前に、地盤調査を行い、宅地の地盤支持力が 30kN/㎡以上出ることが確認してから引渡しを行います。30kN/㎡以上とは、木造 2 階建ての住宅を建てても問題無い地盤支持力です。

よって、もし 3 階建ての住宅や鉄骨造の住宅などを建てる場合には、地盤支持力が足りないこととなりますので、個人負担が生じます。

復興事業については、できる限り皆さまの期待に応えられるよう進めていきたいと思ひます。今後も 1 日も早い工事の完成に向け全力で取り組んでまいりますので、皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

震災メモリアルパークについて

東日本大震災犠牲者を追悼し、震災の経験・記憶・教訓を後世に伝え、防災意識・防災学習を継承、発信するための施設です。

- 整備までの経緯
平成26年 3 月 基本構想策定
平成27年 7 月 基本計画策定
平成30年度 供用開始予定
- 整備の概要
「祈りのパーク」（約4,500㎡）
 - ・鵜住居駅前の鵜住居地区防災センター跡地を含む位置に整備します。
 - ・5 m盛土し、津波高を表示します。
 - ・慰霊碑等には東日本大震災で亡くなられた市民の名前を記します。
 - ・敷地には植栽を施します。「津波伝承施設」（約360㎡）
 - ・防災学習施設として整備し、震災の記憶と経験を継承します。
 - ・鵜住居での出来事を物語る展示を行います。
 - ・施設は、映像室、展示室、エントランス、事務室から構成されます。

◆山と海の結節点である当該地区に、復興推進を目的として観光振興と地域住民の交流を目的とした拠点施設を整備します。

【地場産品直売所・物産：約146㎡】

- ・東部漁協と連携し、地域で水揚げされた魚を中心とした海産物（鮮魚・手づくり加工品）を販売（地域の生活を支える台所）
- ・地場産品を活用し、地域ブランドとなる加工品を開発・販売（釜石ファンづくりに寄与）

【飲食・休憩：約83㎡】

- ・地域の特長を活かしたローカル色豊かな漁家料理、農家料理を中心にメニューを構成し、地元食材にこだわった料理を提供
- ・和山のそばを中心とした麺類の提供
- ・鵜住居駅の待合室としても利用

【観光・情報案内：約30㎡】

- ・国道45号や三陸沿岸道路利用者、鵜住居駅利用者等に対して、道路情報のほか、周辺の山や海等の自然資源や歴史・文化資源等の観光情報を提供

【観光トイレ（約41㎡）】

- ・本施設やメモリアルパークを訪れる人、鵜住居駅を利用する人たちが立ち寄って利用できるトイレ

男性用（大3個、小4個）
女性用6個
障がい者用1個